タイトル：2023 年度　教育セミナー（第 19 回）
日時：2023 年 9 月 21 日（木）～24 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

「在独クルド人の文化活動と政治参加：トルコとの紐帯を中心に」
奚　湘源（立命館大学大学院　国際関係研究科　博士前期課程 2 年）

ゼミの同期が前回、教育セミナーで参加した際、類似した研究をするもの同士のネットワークを構築することができたと聞き、今回のセミナーに応募した。今回の教育セミナーでは、自分の研究と関連するマイノリティ、ジェンダー、文化領域の研究者の皆様と話をする機会をいただき、研究内容に関わる話だけでなく幅広い話題で会話を持つことができた。異なる研究課題に取り組む異なる視点から世界を考える面白さを垣間見ることができた時間は本当に幸せなものだった。これこそが、今回の旅の一番の収穫だと考えている。

報告者は 19 歳で AIESEC という NGO 組織に所属した。この経験は、異文化に関心を持つことを促し、アイデンティティや異文化について深く考える機会を与えてくれた。2018 年には、海外ボランティアとしてトルコで数か月生活し、トルコの教育支援に携わるボランティア活動に参加した。そのようなきっかけで、報告者はトルコと中東問題について興味を持ち始めた。とりわけ、近年ますます注目を集めているクルド人問題を対象に研究することを決意した。

教育セミナーでは、中東イスラーム教育セミナーの皆様から多くの意見を頂くことができた。自分の研究に興味を示していただけたことは、今後研究を続ける自信の一部になった。現場では先生方や受講生たちから貴重な意見を頂き、会話からもたくさんの刺激を受けた。この経験は、将来の研究活動にとっても、自己成長にとっても励ましの糧となる。修士論文の執筆においても大いに参考になった。今後の研究の方向を確定するためにも、研究に大きな意義を見出す必要性を学んだ。また教育セミナーの発表の機会で、自分の考えをうまく伝える方法や、リサーチを聞き手によりよく理解してもらえるよう発表する方法を身につけ、プレゼンテーションのスキルを鍛えることができたと思う。感謝をここに記したい。

最後に、コロナがやっと緩和しつつある中、ハイブリッド開催という形で自分の研究を日本語で発表するのはこの教育セミナーが初めてで、非常に緊張した。クルド語、ドイツ語文献の翻訳作業も初めてで、発表材料を準備する時も迷って悩んで望まなければならなかった。イスラームや中東に関連する研究をされる皆さんが集まれる場所があること、先生方の講義や受講生たちの発表を聞けたこと、院生の私に貴重なアドバイスをくださったこと、どれも大変勉強になった。今後はわかりやすい、伝えやすい表現を学んで身に着けたいと思っている。

日増しに混沌とする世界にあって、自分の見解を堅持し続けることができる人々に感動し、励まされた。今後、多くの困難があっても、自分の研究を続け、国際交流を促進させるために全力を尽くしたいと思う。今後も標準的な答えがなさそうな世界におい

て、異文化間の相互理解や共生を促進し、より適切な解決策や支援策を見つけるために努力し、自分の見解を提供できる人になるために頑張り続けたい。